

# 北極圏シベリア皆既日食観測計画

森 友和

## 観測計画に当たって

1990年7月22日にフィンランドから始まりソ連北部及び北極海・ソ連極東地域を通過しアラスカ沖で終る皆既日食は、最大皆既時間が、北緯65度07分、東経168度41分で2分33秒です。この頃の太陽活動は、1979年の極大期を向かえてから次の極大期と予想される時期と重なっています。そこで私は、ソ連極東地域で観測が出来ないものか、昨年からソ連側に打診をしてきました。計画発案以来8カ月、コスモトラベル（東急代理店）の尽力があって、やっと6月になって観測地へ入ることが出来るメドがつかしました。今後はさらに細部にわたって計画を練って行くつもりです。

## 観測地の選定

もっとも観測に好ましい候補地は、皆既時間が最大の所であることは言うまでもありませんが、この地に近いMARKOVO (64°41' N、170°25' E) の気象データでは、1984年から1988年の5年間の7月の平均雲量は7.4で、7月の雲量8.5以上の日数の平均は、13.6日の為、雲量が多く、「曇」の日がヶ月の半分近くを占める結果が過去のデータから出ています。また、この地より東側は、東へ行くほど気象条件が悪くなっています。

コリマ川が東シベリア海にそそぐ河口から70Km遡った町のCHERSKI J (68°45' N、161°20' E) の気象条件は、平均雲量6.5、過去4年間の7月の雲量8.5以上の日数は7.8日で空が晴れる確率は高くなっています。そして、CHERSKI Jより西方には、日食中心帯にかかる町とそこに到る道路などが明確でないため、CHERSKI Jの近郊に観測地を求めざるを得ないのではないかと現時点では判断しています。

なお、アメリカ隊の一行はCHERSKI Jの東方350KmのOSTROVNOYEで観測を行なうことをソ連側から情報を得ましたが、詳しい事はまだわかっていません。

## CHERSKI Jの気候

7月のCHERSKI Jは過去5年間のデータからでは、平均気温は13.1度C、最高気温26.9度C、最低気温は0.8度C、平均風速は4m/s、7月の降水量は31mm/月、相対湿度は68%、平均雲量は6.5、快晴の日数は1日から4日となっている。大変荒っぽい言い方をすれば、数字からは東京の11月の気候に近いと云えるが、一日の最低気温と最高気温の差はとても大きいものがあります。

北緯69度では、7月22日は太陽は真夜中になっても完全には沈まない白夜の時期です。一日中太陽が出ているこの時期の気候のことを、北極圏の人々は口をそろえて云うそうです。「7月20日はまだ夏ではない、7月25日はもはや夏ではない」と。

## 旅行計画の準備

今回の日食観測旅行に当たって、ヤクーチャ州の州執行委員会の許可を貰い、その協力の下に行なわれることとなりました。そして、KHABAROVSKのインツーリストの部長ANTORY. STOLBIKOV氏が、どのような条件で観測が出来るか調査しています。

7月の時点で、ヤクーツクの宇宙天文研究所からCHERSKI Jの南西30KmにあるNIZHNEKOLYMSKで観測地を紹介したいと連絡が入っています。9月に現地調査をする予定だそうなのでその報告を含めて観測地の決定をするつもりです。

更に、10月9日から、北海道にて、日ソ極東友好交流会議が開催されます。今回の日食観測をこの会議の正式議題としてあげることで、ソ連側の一層の協力が得られるようにして行く予定です。